

教育目標: ○ゆたかな心で じょうぶな子 ◎自らよく考えて やりぬく子(重点目標) ○みんなで 協力しあえる子  
 目指す学校像: 1心が響き合う学校 2学ぶ喜びがあふれる学校 3力がみなぎる学校 4互いに結ばれている学校  
 目指す児童・生徒像: 1よく考え伸びようとする子 2心優しく支え合おうとする子 3すすんで心身をきたえようとする子  
 目指す教師像: 1自らを高めるとともに、互いに高め合う教職員 2教育論をもち、児童の育ちを語る教職員 3確かな人権意識をもつ教職員 4経営参画意識をもつ教職員 5教育公務員としての自覚をもつ教職員 6学校・地域を愛せる教職員

領域	中期目標	短期目標	具体的方策	努力指標	努力指標	成果指標	成果指標	改善策	学校関係者評価記入欄
				(中間)	(最終)	(中間)	(最終)		
豊かな人間性の育成	人権教育の充実 道徳教育の充実 生活指導の充実 体験的活動、表現や鑑賞活動の充実	全教育活動を通して、いじめ防止教育の充実に努め、命を大切に、互いの人権を尊重し合う態度を育てる。	「いじめ防止基本方針」に則り、年間を通じていじめ防止教育を徹底し、いじめの兆候を見逃さず、一人ひとりの児童理解に基づいた指導の充実を図る。	3	4	4	4	引き続き、いじめに関するアンケートを活用する。一人ひとりと信頼関係をしっかりと築き、児童理解に努める。また、学年で情報共有していく。道徳の授業を活用し、いじめが許されないことを適宜伝える。	引き続き丁寧な対応をお願いしたい。高学年など当事者両者に一緒に話すことが必ずしも最適ではないケースもあると思う。友達を大切にすることが高いが友達を気にしすぎているか心配。自分も大切にしてほしい。
		基本的な生活習慣の確立を図り、自分自身で自他の安全に配慮して行動しようとする態度を育てる。	「返事・あいさつ・後始末」を合言葉に、生活指導を徹底する。「四小生活スタンダード」を改善、指導の充実を図る。	3	4	4	4	教員が見本となり、あいさつをする。月間の生活目標や「四小生活スタンダード」を活用し、学級活動や道徳の授業等で取り上げ、児童一人ひとりが気持ちよく過ごす良さを伝える。	四小の児童はしっかり「あいさつができる子ども」に成長してきている。校内にとどまらず、校外でもあいさつがとびかうよう、地域と学校がより連携できたらと思う。
確かな学力の定着	基礎的・基本的事項の徹底 授業の充実を図るための授業改善 読書活動・プログラミング教育の推進	児童一人ひとりが「わかる、できる、つかえる」ことを実感できる授業の実践し、児童の自己肯定感を育てる。	授業のねらいと振り返りを全授業で行い、児童一人ひとりが「わかる、できる、つかえる」ことを実感できる授業の実践し、児童の自己肯定感を育てる。	4	4	4	4	一人ひとりの実態に応じた教材開発に努め、「できた。」を実感させていく。内容を理解できなかったに限らず、ICTを取り入れ、個別最適化を意識した学習を進めていく。	テストの点数が高いだけでなく、学ぶことが楽しい、自分で学び自分を高めていく力を付けてほしい。
		自ら学び、自ら考える活動の日常化を図る。	学習活動においてICTを積極的に活用し、情報活用の基礎および実践力、ルールや科学的な理解を図る。また、朝読書や読書旬間を設け、読書活動の習慣化を図る。	4	4	3	3	ICTが必要か、授業内容や児童の実態に合わせてアナログとデジタルの取捨選択が必要である。また、著作権や情報モラルも引き続き指導する。読書については、読書活動を多く取り入れ、習慣化していく。	当然ICT教育も充実を望みますが、読書の大切さ本の楽しさも伝えていただくことに期待しています。
たくましい心身の育成	健康教育の積極的な推進 体育活動の日常実践を推進 安全教育の推進	食育を計画的に実施し、食への関心を高める。	給食指導や会食会を通して、食や健康に興味をもち、よりよい生活を送ろうとする態度を育てる。	3	3	4	4	教員と栄養士の食育や家庭科、国分寺学等、栄養や食材について学習したことを、児童の普段の食事や給食にいかしていく。	子どもたちから高評価。引き続き、質の維持を期待している。
		体育指導の充実	「遊ぶ、かかわる、高める」を合言葉に、自ら体力を高める児童の育成に取り組む。自他の安全に目を向け、自ら危機を回避し、行動できる資質や能力を育む。	3	3	3	4	積極的に体を動かせるよう、休み時間の校庭遊びを奨励する。また、校庭の使い方や遊びのルールを指導し、事故防止に努める。	ボールなどの道具の質も古くなっているものがあるようで、可能な範囲で更新をお願いいたします。
学校・家庭・地域の連携強化	特色ある教育活動の充実	「四小国分寺学」として地域に親しみ、学び、貢献する授業を推進する。	「四小国分寺学」として、史跡等の地域環境や地域人材を活用した、地域に親しみ、地域に学び、地域に貢献する授業を推進する。	3	3	4	3	来年度の研究発表に向け、今年度の成果と課題から「四小国分寺学」を更にブラッシュアップし、国分寺への郷土愛や豊かな心の醸成を図る。	市政60周年や市庁舎の移転といったアニバーサリーも増えて児童が地域に愛着をもてるような教育をぜひお願いしたい。家庭でも地域の話が出るなど、地元の知識が身に付いていると感じる。
	家庭・地域との連携及び協働を推進	家庭・地域と互いに手を携えた安全管理の徹底を図る。	義務教育9年間を見通した「四中ブロックスタンダード」を学校・保護者・地域で共有する。	3	3	3	3	「四中ブロックスタンダード」について、年度初めに保護者に周知し、共通理解を図っていく。「四中ブロックスタンダード」の内容を確認し、系統的に指導をする。	まちの「核」となるのは中学生。中学生が地域に貢献できる人になるよう育てる。そのために小学生のうちから地域で育てていく。良い地域が、良い学校をつくる。子どもが大人になったとき「良い地域で良かった」と思える環境づくりをしていく。